



大分大会を振り返る堀泰樹さん(左)と佐藤由美子さん=6日、大分合同新聞社

実行委員長 堀泰樹さん



堀 達人より普通の教員に

堀 小野正嗣さん(芥川賞作家、佐伯市蒲江出身)の講演は新聞と文学を非常によく結び付けて話してくれ、感動した。(佐藤運営委員長がコーディネーターを務めたパネルディスカッションは「楽しくなければNIEじゃない」と、これから始めるようなとする教員らに対象を絞つてみた。NIEの「マニアには物足りなかつたかもしれないが、参加者が意識を共有しチームになれたと思う」講演の「新聞は包み込

ー大分大会では県内の教育関係者が約600人参加した。

堀 多くの教員が興味はあるんだと思う。具体的な

授業を見たことで、理解が広がることを願っている。今後、実践研究会と教員がリンクしていくことを期待したい。

佐藤 NIEを「やってみよう」という人を増やしたいという気持ちでやった。NIEの日頃の姿を見せることが、異例ともいえる参加を促す通知文を出して後押ししてくくれた。

ー全国大会が終わっても、むしろこれからがNIEの始まり。NIEを広げていく上での課題は。

佐藤 学校管理職や教育委

・白倉純)

堀 求められる能力根付く

員会関係者に働き掛けてNIEの研修を広めたり、NIEアドバイザーがいろんな場に出でていかないと。NIEに取り組むことでどんな効果があるかを示すことは重要。テストの点数、学習態度など、相手によって示す効果を変えていく必要もある。

堀 新聞に親しむ、読む、考える、意見をまとめるといったNIEの方法論を基に「読むこと」の教育全体をどう変えるかに切り込まないと。必要なことを読み取る、情報の真偽を見極める、批判的に読むといった調べ読みの力は国語以外の教科でも基盤になる。NIEの達人はいらない。普通の教員が取り組めるNIEを目指したい。

効果発信 意識を共有



堀 関心の高まりを感じた 佐藤 定着には研究会が一番

—まず、大分大会を終えた感想を。

堀 ほっとした。こんなに人が多く集まるとは考えてなく、閉会式まで多くの人が熱心に残ってくれた。NIEへの関心の高まりを感じた。

佐藤 県NIE実践研究会で一緒にやってきた大分の教員が学んだことを發揮してくれて、子どもたちもとても活躍してくれた。やってよかったし、とてもうれしい。

—初日は記念講演やパネルディスカッションなどがあつた。

佐藤 小野正嗣さん(芥川賞作家、佐伯市蒲江出身)の講演は新聞と文学を非常によく結び付けて話してくれ、感動した。(佐藤運営委員長がコーディネーターを務めたパネルディスカッションは「楽しくなければNIEじゃない」と、これから始めるようなとする教員らに対象を絞つてみた。NIEの「マニアには物足りなかつたかもしれないが、参加者が意識を共有しチームになれたと思

ー大分大会では県内の教育関係者が約600人参加した。

堀 多くの教員が興味はあるんだと思う。具体的な

授業を見たことで、理解が広がることを願っている。今後、実践研究会と教員がリンクしていくことを期待したい。

佐藤 NIEを「やってみよう」という人を増やしたいという気持ちでやった。NIEの日頃の姿を見せることが、異例ともいえる参加を促す通知文を出して後押ししてくれた。

ー全国大会が終わっても、むしろこれからがNIEの始まり。NIEを広げていく上での課題は。

佐藤 学校管理職や教育委員会関係者に働き掛けけてNIEの研修を広めたり、NIEアドバイザーがいろんな場に出でていかないと。NIEに取り組むことでどんな効果があるかを示すことは重要。テストの点数、学習態度など、相手によって示す効果を変えていく必要もある。

堀 新聞に親しむ、読む、考える、意見をまとめるといつたNIEの方法論を基に「読むこと」の教育全体をどう変えるかに切り込まないと。必要なことを読み取る、情報の真偽を見極める、批判的に読むといった調べ読みの力は国語以外の教科でも基盤になる。NIEの達人はいらない。普通の教員が取り組めるNIEを目指したい。

教育に新聞を活用する取り組みの深化、普及を目指した「第21回NIE全国大会」は4、5の両日、約1400人が参加し大分市で開催。パネルディスカッションや公開授業などを通じて大分ならではの新聞活用を発信し、参加者がNIEの多様なノウハウを共有した。大分大会の実行委員長、堀泰樹さん(大分大学教育学部教授)と運営委員長、佐藤由美子さん(大分市寒田小学校長)の2人に大会を振り返してもらい、大会後もNIEを県内に根付かせていくために必要なことなどを聞いた。

大分大会を振り返って

運営委員長 佐藤由美子さん



「主権者教育とNIE」では全国の動きをしっかりと押さえつつ幼稚園からの主権者教育の枠組みが示され、参考になった。

佐藤 「行政との連携で進めるNIE」では沖縄や東京の研修事例が示された。大分も研修をやるようになったが、大会に行政の人もたくさん来ていたので、研修をさらに入れることでNIEがさらに広がっていけばいい。「NIEのカリキュラム化」では、比較的珍しい幼稚園の発表を見に他県の幼稚園からも来ていた。富士見が丘幼稚園(大分市)が3~5歳児の活動計画をきちんとつくり、園児にとって新聞紙が新聞に変わった。NIEで育った中学生が出演し、賢明な学習者が育っていると感じた。

佐藤 大会参加者から「授業者が若いね」と言われた。授業らによる大分ならではの自主研究組織「県NIE実践研究会」もアピールできたのだろう。

佐藤 寒田小の公開授業は、2012年に設立した、小学校から高校まで発達するにつれて、自分が子どもたちのすごいところ。全体を通じて、小学校から高校まで発達するにつれて、大人になる様子が見られた。

佐藤 NIEが直面する四つのテーマで特別分科会を開いた。大分から発信できること

は。堀 「学校図書館とNIE」で図書館を情報センター、学習センターとして新聞環境を整えている中津市の事例は、これからも先進的モデルにな

る。

佐藤 難しい記事を読むことがNIEと思っている人がまだ多い。工作を通じて新聞に親しむところを見せられたのは良かった。「そこから始めるないと」参加者にも言わ

た。由布高校生の神楽にも庄倒された。

佐藤 難しい記事を読むことができちゃんと文章がまとめてられ、実社会で求められる能力がしっかりと付いていると感じた。

佐藤 高校生新聞は短い時間でできちゃんと文章がまとめてられ、実社会で求められる能力がしっかりと付いていると感じた。由布高校生の神楽にも庄倒された。

佐藤 考える、意見をまとめるといつたNIEの方法論を基に「読むこと」の教育全体をどう変えるかに切り込まないと。必要なことを読み取る、情報の真偽を見極める、批判的に読むといった調べ読み

の力は国語以外の教科でも基盤になる。NIEの達人はいらない。普通の教員が取り組めるNIEを目指したい。

(聞き手はNIE推進室長